

意外かもしれませんが、都会で出会う生き物の多くは外来種で占められています。北米のアライグマ、南米のヌートリア、アジアのハクビシンは日本にやってきて都会にも住み着いた比較的大型の外来動物です。池一面を覆うことのあるホテイアオイは花はきれいでも外来種ですし、その下には外来種として昔から知られるアメリカザリガニがいます。このように外来種は私たちの身の回りにたくさんいるのですが、外来生物に対する私たちのイメージは決して良いものではありません。「よそのものだから?」、それとも「在来種や生態系に悪さをするから?」なのでしょう。

このパネルでは、外来生物に対してどうして悪いイメージを持つようになったのか、鞠子ゼミの学生が2020年に東京都内の大学に通う学生（138名）に対して実施した意識調査から考えてみようと思います。



ホテイアオイ



アメリカザリガニ

引用：環境省HP「侵略的な外来種」

(<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/invasive.html#sec1>)

大学生が外来生物に対して抱くイメージ

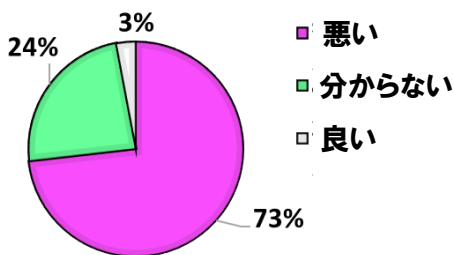


図1 外来生物に対するイメージ

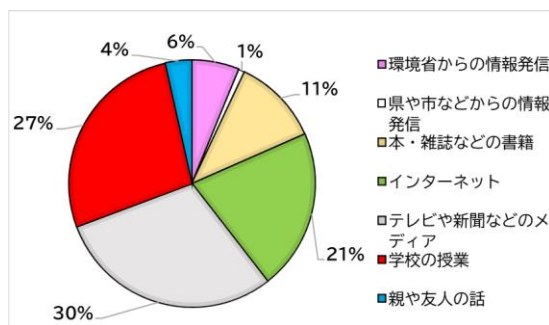


図2 外来生物に対するイメージを抱ききっかけとなった情報源

外来生物に対するイメージを7段階評価で回答してもらったところ、73%もの学生が悪い印象をもっていた(図1)。また、そのイメージを持った理由を尋ねたところ、在来種と生態系への悪影響を与えるとした意見が最も多かった(表1)。

表1 外来生物のイメージをもった理由

否定的な意見	
在来種への悪影響	32.8%
生態系への悪影響	29.7%
環境への悪影響	7.2%
人への悪影響	2.2%
迷惑	0.7%
危険	0.7%
どちらとも言えない意見	
良い面と悪い面がある	11.6%
良くも悪くもない	5.1%
特に関心がない	3.6%
人間のせい	2.2%
知識がない	1.4%
肯定的な意見	
進化が進む	0.7%
メリットがある	0.7%
好き	0.7%
食べると美味しい	0.7%

悪いイメージを抱ききっかけ

「外来生物に対するイメージを抱くようになった情報源を教えてください」という質問に対して、「テレビや新聞などのメディア」(30%)や「インターネット」(21%)などのメディアであると回答した学生が最も多かった(図2)。「学校の授業」と答えた学生も27%いたことから、学校での教育は外来生物に対して悪いイメージをつくる内容のものが多いように考えられた。

外来生物の良いところを知ると・・・

外来生物に対する悪いイメージを抱ききっかけの1つは学校教育であったが、予めこの結果を予測した上で、外来生物が人間や他の生物に対する良い悪いの影響を対して利益を与える側面についても紹介した質問項目を加えておいた。その上で、質問の最後に、外来生物に対するイメージについて再質問した。その結果、イメージが悪いとした学生は48%減少し、良いとした学生は7%増加した(図3)。また、分からないと答えた学生も40%余り増えたが、その理由は外来生物にも良い面と悪い面があることを知り、悪いのは人間がだとするものだった。この結果は、公平な環境教育の重要性と必要性を示唆するものと言える。

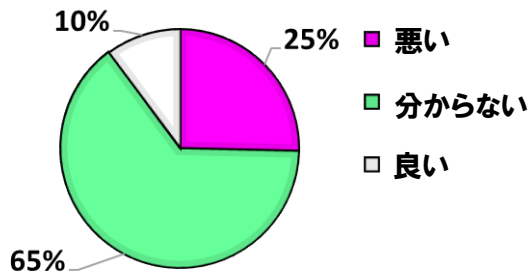


図3 外来生物が人間や生物に対して利益を与えることも紹介した質問後に回答したイメージ